



穴險橋をスタートする鎌田選手（後列左）。すべてはここから始まりました。



第57回
徳島駅伝

第57回
徳島駅伝

躍進！阿南市チーム5位入賞

～今年も数々のドラマがありました～



美波町役場前からスタートする水口選手（右手前）。



父から襷を受けてゴールの池田駅をめざす湯口選手（右）。

「いけよー」
襷でつながる親子の絆
父・武夫選手から檜が飛んだ。

湯口武夫選手 第32区は再スタート区間。1位で襷を渡すからと娘に約束していましたが、残り2kmで心が折れそうになりましたが、娘が待っていると思いつい何と頑張りました。さすがに1位の金メダリストは早かったですね。菜々美は水泳との掛け持ちでよく頑張っていると思います。下の子が中学生になる3年先までは、何とか現役で頑張れたらと思っています。

湯口菜々美選手 親子での襷リレーは今回で2回目。前回とは逆のリレーとなりました。父が笑顔で飛び込んで来たのがとても印象的でした。緊張もなく、いいレースができました。父が、私の背中を強く押し出してくれたことがうれしかったです。



4位のチームとの差は約2分、6位のチームとの差も約2分、追うも追われるも重圧のかかった襷を握り締め、森選手が激走。

歯を食いしばってゴールに駆け込む森選手。

新春の阿波路を駆け抜ける第57回徳島駅伝が、1月4日から3日間にわたり開催され、各都市のランナーが健脚を競い合いました。

出場チームは15チーム。6位以上を目標に掲げレースに臨んだ阿南市チームは、初日から4位争いと好レースを展開。沿道からの声援にも力が入りました。それぞれの思いを胸にチーム一丸となつて1本の襷をつないだ阿南市チームは、昨年の7位から大きく躍進して5位入賞を果たしました。解団式では、第60回大会には優勝旗を持って帰ろうと、さらなる上位進出を誓いました。

ベテラン選手等の活躍で浮上のきっかけをつかんだ阿南市チームは、自身初となる区間賞に輝いた稲岡選手（岡山大3年）や、初出場で区間2位と大健闘した西條選手（福井中2年）などの活躍で最後まで4位争いを繰り広げました。また、湯口親子や山崎兄弟による襷リレーといった徳島駅伝ならではのオウダーが組まれるなど見所も多かったのが印象的です。レース以外でも、和瀬コーチと武本主将との婚約が報じられるなど、とく話題の多い大会となりました。

今回のレースを振り返り、武本主将は、「2位、3位争いも近い将来の話。」と手ごたえを感じていました。「大ブレイクもなく、それぞれが実力を出し切ってくれました。」と選手の健闘をたたえた米山監督。就任後、成績不振にあえいでいただけに5位入賞の喜びはひとしお。「駅伝は地域のスポーツ文化そのものです。もつと多くの人に徳島駅伝を楽しんで欲しい。そして、将来、この阿南市から箱根駅伝や実業団駅伝、オリンピックで活躍する選手が誕生することを願っています。」と、3年間の務めを終え、有終の美を飾った監督の目には、大粒の涙があふれていました。

心に残る感動のレースを繰り広げてくれた阿南市チームの皆さん、そして温かいご声援を送っていただいた市民の皆さん、本当にありがとうございました。

森 泰英選手 1秒に泣きたくなかったから力を振り絞ってゴールに駆け込みました。5位入賞は上出来です。昨年は故障で出場できず、引退も囁かれました。走ること自分の思いを表現することができなかった悔しさを120%ぶつけました。今は、走れたことでほっとしています。そして、一線を退いていった若手の選手が、私たちベテランの走りを見て、またこの舞台に戻って来てくれることを願っています。

来年は？
とりあえず一つ上をめざします。



「頑張れよー」
襷とともにつないだ兄弟愛。

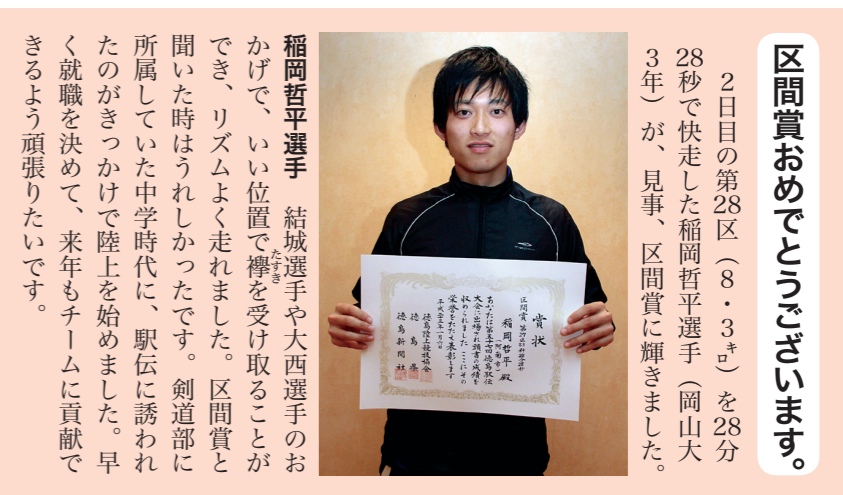
襷を渡して背中を軽く押し出す兄・優希選手（左）。

山崎優希選手 4位をキープするために懸命に走りました。弟に襷を渡した瞬間はとて不思議な感じでした。正直、もう少し前で襷を渡してやりたかった。背中を押してやれてよかったです。

山崎幸輔選手 襷を受け取った時、兄がこう言ってくれました。「頑張れよ。」うれしかったです。レースでは、追い上げてくる5位チームを意識して走りました。来年はもつとレベルアップしてチームに貢献したいです。



阿南中内を快走する武本選手。
「がんばれー」と声援を送る富岡保育所の園児の皆さん。
吉野川合同庁舎前をスタートする久保選手。
美波町役場前をめざして力走する伊丹選手。
相生から驚敷までの区間を力走した石丸選手。
森選手から襷を受け、区間3位の快走を見せた黒澤選手。
コーチとしてチームをサポートした和瀬さん。
区間3位の走りでもチームを引っばった武本主将。



区間賞おめでとうござります。
2日目の第28区（8・3km）を28分28秒で快走した稲岡哲平選手（岡山大3年）が、見事、区間賞に輝きました。

稲岡哲平選手 結城選手や大西選手のおかげで、いい位置で襷を受け取ることができ、リズムよく走れました。区間賞と聞いた時はうれしかったです。剣道部に所属していた中学時代に、駅伝に誘われたのがきっかけで陸上を始めました。早く就職を決めて、来年もチームに貢献できよう頑張りたいです。